

育てよう 鏡野のよい子シリーズ



「勝ち負け」

「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」これはプロ野球で南海ホークス、ヤクルトスワローズ、阪神タイガース、東北楽天イーグルスの監督を歴任した野村克也氏の言葉です。運動部顧問をしている間つくづく「なるほど」と納得していました。どんなに臍頂目に見ても相手の方が強そうなのに、終わってみれば勝っていた、勝てそうな試合なのにいつの間にか敗れていた、こんな経験を幾度も繰り返してきました。「部活動は、勝つためにやるのではない」勿論、その通りで勝利至上主義であってはならないと思います。部活動を通して得られるかけがえのない経験はとても貴重ですし、多くの実体験から様々な教訓を学んでほしいと願います。その中で、「勝つ喜び」も「負ける悔しさ」も味わうことは、等しく大切であり、試合をする目的の一つでもあると考えます。不思議の勝ちには条件があります。それは、地道に努力を続けているということ

です。目標達成への二丁目一番地です。負けには必ず原因があります。原因があるから次の行動に移せます。原因を分析し課題を明らかにし改善することにより、新たなステージに立てます。野村氏は、「負けて知る勝ち」と言っています。「必然の負け」にも「偶然の勝ち」にもそれぞれに意味があります。振り返ってみれば、それを生かせたと思えることも、生かせず申し訳ないと思うこともあります。この「勝ち負け」から多くを学ぶことができた」と感謝しています。

部活動だけでなく、多様なケースで当てはまります。「勝ち負け」を「成功・失敗」や「満足・不満」などに置き換えることもできます。実際、生徒は日常生活の中でこのような経験値を積んでいます。そして将来どこかの時点で振り返ってみて、「あの時があったからこそ、今がある」としみじみ思えるそんな瞬間がやってきてほしいと願っています。

鏡野町生徒指導推進連絡協議会

鏡野中学校 丸山 敬三

のびのびひろば

～秋の自然を楽しもう！～

奥津保育園では、奥津地域3つの公民館長さんや地域の方と一緒に5月にサツマイモの苗を植え、10月に収穫をしました。「先生！みてみて！ここにもあったよ！」「まだまだ下につながっとる！」と大喜び！もぐらの手で根気よく土を掘り、次から次へとサツマイモを掘ると、「やった～！」「たくさん掘れたなあ～！」と満足感にあふれる顔で友達と見せ合っていました。園に帰ってから、さっそくイモのツルで綱引きや縄跳びをして遊んだり、大きさや重さを比べたりして楽しみました。

また、秋探しの散歩では感動体験がいっぱい！五感をしっかり働かせて、秋の自然を満喫している子ども達です。



(4歳児)



みてみて！つながっとる！



【いちじく】

いいにおい～♪



サツマイモチャンピオンはこれ！



～イモのツルでつなひき～

しっぽみたい！長いなあ～！



【ゆず】

秋をいっぱい感じているよ！～お散歩大好き！～



お花あげる♡



くっつく葉っぱみ～つけた！



おいもあったよ！



【ひいらぎ】



チクチクする…鬼が嫌いな葉っぱじゃ！

(奥津保育園)